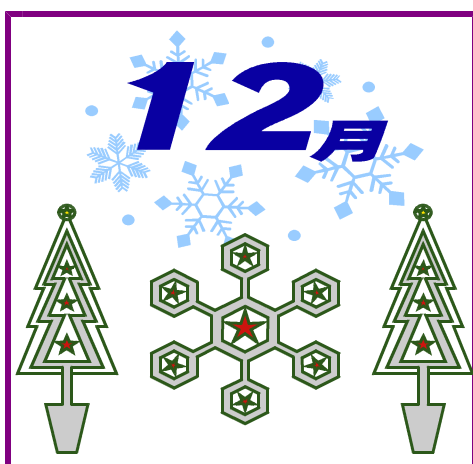


めぐみイエス・キリスト教会

2024年12月29日(日)2024年感謝礼拝

午前10時より

週報「通算第738号」



2024年標題聖句

マタイの福音書第6章33節

《まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌82「牧人 羊を」 p. 112

【交読文】 No.49 イザヤ書40章(抜粋) p. 918

【賛美Ⅱ】 新聖歌99「馬槽の中に」 p. 139

【使徒信条・主の祈り・前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「天より来られし」

【聖書朗読】 詩篇136篇1節～9節および23節～26節

【礼拝説教】 《主に感謝せよ》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄与」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(詩篇136篇1節～9節・23節～26節)旧約p.1077

136:1 【主】に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。主の恵みはとこしえまで。

136:2 神の神であられる方に感謝せよ。主の恵みはとこしえまで。

136:3 主の主であられる方に感謝せよ。主の恵みはとこしえまで。

136:4 ただひとり大いなる不思議を行われる方に。主の恵みはとこしえまで。

136:5 英知をもって天を造られた方に感謝せよ。主の恵みはとこしえまで。

136:6 地を水の上に敷かれた方に。主の恵みはとこしえまで。

136:7 大きな光る物を造られた方に。主の恵みはとこしえまで。

136:8 昼を治める太陽を。主の恵みはとこしえまで。

136:9 夜を治める月と星を。主の恵みはとこしえまで。

136:23 私たちが卑しめられたとき主は心に留められた。主の恵みはとこしえまで。

136:24 そして主は私たちを敵から解き放たれた。主の恵みはとこしえまで。

136:25 主はすべての肉なる者に食物を与える方。主の恵みはとこしえまで。

136:26 天の神に感謝せよ。主の恵みはとこしえまで。

●ポイント1. 私たちが口にすべき言葉とは？

※エペソ人への手紙5章3節～4節「使徒パウロの勧め」(新約p.107)

5:3 あなたがたの間では、聖徒にふさわしく、淫らな行いも、どんな汚れも、また貪りも、口にすることさえしてはいけません。

5:4 また、おいせつなことや、愚かなおしゃべり、下品な冗談もそうです。これらは、ふさわしくありません。むしろ、口にすべきは感謝の言葉です。

●ポイント2. 私たちの感謝すべき姿勢とは？

※エペソ人への手紙5章20節「すべてのことについて」(新約p.391)

5:20 いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって、父である神に感謝しなさい。

※ヘブル人への手紙13章15節～16節「賛美のいけにえ」(新約p.457)

13:15 それなら、私たちはイエスを通して、賛美のいけにえ、御名をたたえる唇の果実を、絶えず神にささげようではありませんか。

13:16 善を行うことと、分かち合うことを忘れてはいけません。そのようないけにえを、神は喜ばれるのです。

●ポイント3. 神様の約束とは？

※ローマ人への手紙8章28節「共に働いて益となる」(新約p.310)

8:28 神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことが共に働いて益となることを、私たちは知っています。

◎先週のメッセージ【クリスマスメッセージ(御使いの役割とは?)】

《主イエスの生涯において、御使いが多く関わっていることについて、お話します。まず、御使いガブリエルが、神から遣わされてガリラヤのナザレという町のひとりの処女のところに来ます。

「おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられます。恐れることはありません、マリア。あなたは神から恵みを受けたのです。あなたは身ごもって、男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。」

そして今度は、マリアの夫ヨセフに夢で御使いが告げ知らせます。「ダビデの子ヨセフよ、恐れずにマリアをあなたの妻として迎えなさい。その胎に宿っている子は聖霊によるのです。マリアは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方がご自分の民をその罪からお救いになるのです。」

そして主イエスが誕生されたその日、ベツレヘム郊外の羊飼いの所に御使いが現われ「良き知らせ」を告げ知らせます。この後、羊飼いたちは、ベツレヘムにおいて、みどりごなる主イエスを見つけます。

そして、公生涯の終わり、ゲッセマネの園において、主が血の汗を流しながら祈っておられると、御使いが天から現われて、主イエスを力づけたとあります。そして、主イエスの復活の時には、御使いが墓の見張りをしていたローマ兵に現われます。その後、マグダラのマリアと女たちにも御使いは現われ、主の復活を伝えることとなります。

それから、主がオリーブ山において昇天された時にも、御使いは弟子たちに現われます。つまり、主の生まれる前から、十字架と復活、昇天にいたるまで、御使いが深く関わっていることが分かります。

父なる神様は主イエスの生涯において、重要な場面で御使いを遣わされたように、私たちクリスチャン一人一人にも、実は御使いを遣わして、守っていると言うことなのです。ただ私たちだけが知らないだけなのです。私たちには、御使いであることが知らされないからです。》

◎お知らせ

※次回は2025年1月5日午前10時より、新年礼拝となります。